

12th Japan-Korea Symposium on Materials and Interfaces 報告書

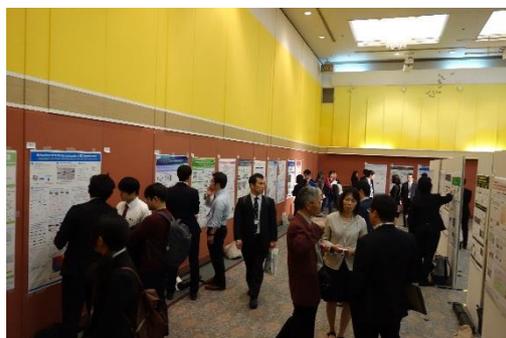
東京理科大学 庄野 厚

12th Japan-Korea Symposium on Materials and Interfaces (第12回日韓材料界面シンポジウム)が2016年11月2日(水)~4日(金)の日程で行われた。このシンポジウムは、化学工学会材料・界面部会と韓国化学工学会材料部会(Materials Division of KICChE)が共同して、隔年で日本と韓国で交互に開催しているものである。本シンポジウムは、化学工学、化学、材料工学分野において材料、界面に関する研究に従事している日韓の研究者が互いの研究成果について知見を深め、さらなる研究の進展に資すると共に、人的交流を促進するための機会としている。第10回の京都(2012年)、第11回のJeju(2014年)に続き、第12回は富士山の麓、御殿場高原ホテルにて開催された。シンポジウムの実行委員長は、日本と韓国の当該部会長である山口猛央教授(東京工業大学)と Do-Heyoung Kim 教授(Chonnam National University)である。シンポジウム参加者は127名で、その内訳は日本側が71名(学生:42名)、韓国側が56名(学生:35名)で、前回(第11回、参加者数:131名)とほぼ同程度の盛会なシンポジウムであった。

11月2日は、RegistrationとWelcome Receptionがあり、Welcome Receptionはバイキングレストラン麦畑を会場として御殿場高原ビールを堪能しつつ、日韓の参加者の交流がなされた。その後、教員有志は更に二次会で親交を深めたようである。

11月3日は主催者を代表して山口委員長による開会の挨拶に続き、Keynote Lectureが行われた。韓国側からはYoon-Bong Hahn教授(Chonbuk National University)による太陽電池の材料に関する講演、日本側からは宮原稔教授(京都大学)によるナノ空間における相転移に関する講演が行われた。

Keynote Lectureに引き続き行われたポスターセッションは80件(日本側47件、韓国側33件)の申し込みがあったため、11月3日の午前と午後に二回に分けて行われ、熱心な討論が行われた。また、今回のポスターセッションでは学生賞(ポスター賞)を設けられた。ポスター賞の選考は、学生以外のシンポジウム参加者を審査員として、韓国側の発表については日本側参加者が、日本側の発表については韓国側参加者が行うものとした。その結果、Woojin Jung (Sungkyunkwan Univ.)、Kanakano Watanabe (Tohoku University)、Yousheng Wang (Chonbuk National University)、Mingi Choi (Pohang University of Science and Technology)、Yasunao Okamoto (Doshisha Univ.)、Yui Tajima (Tohoku Univ.)の6名の発表がポスター賞に選



ポスターセッション

出された。

オーラルセッションは 11 月 3 日の午後と 11 月 4 日午前に分けて行われ、日韓の両国から各 7 件の話題提供（招待講演）があり、材料・界面分野の研究者からホットな話題が提供された。日本からの発表は多様な内容の基礎研究の発表が見られたのに比して、韓国からの発表では電子、光学材料など技術的注目度の高い分野のものが多く感じられた。

Banquet は、2 日目(11 月 3 日)の夜に立食パーティーの形式で行われた。日韓双方の代表の挨拶、大久保達也前材料・界面部会長による乾杯により和やかに始まり、ポスター賞の発表と表彰なども行われ、盛会のうちに終了した。Banquet 後には、Committee メンバーによる交流会、学生や若手教員が主体となった二次会も開催され、大いに交流を深めた。

3 日目の午前中の講演後、次回は釜山で二年後に再会することを約束して学術プログラムは無事に終了した。午後は、御殿場アウトレット、芦ノ湖、三島スカイウォークをめぐる観光と学生によるサッカーの企画が行われた。いずれの行事も晴天に恵まれ、富士山がきれいに見える中での開催となった。

今回のシンポジウムの日本側実行委員は、Advisory Committee を大久保達也教授、宮原稔教授、今野幹男教授に、Program Committee を車田研一教授、稲澤晋准教授、渡邊哲講師、田巻孝敬講師にお願いをした。特に Program Committee のメンバーには実働部隊としてシンポジウムの運営に本当に尽力いただいた。



オーラルセッション



学生賞表彰



全体写真